

2021年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科/サウンドクリエイターコース											
ベーシックレッスン2_a											
対象	1年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	田熊 知存			実務 経験	有	職種	アレンジャー				
授業概要											
<p>基本的なDAWソフト操作からサウンドメイキングまで修得し、またエフェクト効果などを習得することにより其々の作品のクオリティを上げていく事を目的とする。トータルバランスを視野に入れたサウンドメイキングを各学生が制作し2年次での卒業制作・デビューに向けての準備を行う。</p>											
到達目標											
<p>音楽制作に必要な基本的な操作・知識・技術を学ぶ。1年次は主に4リズムセクションへのサウンド効果の技術・知識の習得を目標とする。実際の生楽器にも触れることにより、DTMにおける作業にリアリティを持たせる。生楽器の音を知ることにより、DAW上で施すエフェクト処理に大きな違いが生れることを意識づける</p>											
授業方法											
<p>DAWの操作方法、基本概念、基本的な（ベーシックな）エフェクトの使い方をCubaseを使用して学んでいく。授業前半は講義・解説、後半はそれを実際にPCを使い実践していくスタイルで行う。</p>											
成績評価方法											
<p>試験・課題 70% 課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価 成果発表 20% 授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価 平常点 10% 積極的な姿勢</p>											
履修上の注意											
<p>スキルに個人差があるので、個別対応も行う。不明な点はその場で質問すること。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。</p>											
教科書教材											
<p>毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする</p>											
回数	授業計画										
第1回	エフェクトの種類と役割について										
第2回	コーラス・フランジャーエフェクターの効果と使用法の習得										
第3回	効果と使用法の習得										
第4回	ディレイエフェクターについての知識と設定の習得										
第5回	トレモロエフェクターについての知識と設定の習得										
第6回	ディストーションエフェクターについての知識と設定の習得										

2021年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科/サウンドクリエイターコース	
ベーシックレッスン2_a	
第7回	オーバードライブエフェクターについての知識と設定の習得
第8回	オクターバーエフェクターについての知識と設定の習得
第9回	ハーモナイザーエフェクターについての知識と設定の習得
第10回	外部プラグインに関しての種類と使用方法
第11回	シンセサイザー基礎知識①アナログシンセサイザーの知識と効果
第12回	シンセサイザー基礎知識②デジタルシンセサイザーの知識と効果
第13回	シンセサイザー・エフェクトを総合的に使いこなす
第14回	ミックスについての基本概念 ミックス技術の習得
第15回	作品提出

2021年度 日本工学院専門学校																				
ミュージックアーティスト科/サウンドクリエイターコース																				
ベーシックレッスン2_b																				
対象	1年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4									
担当教員	田熊 知存			実務 経験	有	職種	アレンジャー													
授業概要																				
<p>譜面と言うツールを用いて他人と意思を疎通させる能力を身につける。具体的には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 譜面を用いて様々な理論を学ぶための準備を行う。 2) 15回までの学習過程で、結局は基礎的な楽典を学ぶことになる。大局的な視点で音楽を捉えられるようになる。 3) 4 rhythm section に関するオーケストレーション・スコアリングを学ぶことにより、生・打ち込みに関わらず、アレンジング全般の基礎部分を身につける。 																				
到達目標																				
<ol style="list-style-type: none"> 1) 苦労せずにノートを取る事が出来るレベルの読譜力と写譜力。 2) 根本的な仕組みを理解した上での正しいリズム表記。 3) 4 rhythm に関して、楽器の特性に関する十分な理解。 4) 4 rhythm (+ lead 楽器) セットアップでのスコア(およびパート譜)作成。 																				
授業方法																				
<p>1~15回で記譜法、16~30回で 4 rhythm アレンジを扱う。記譜法を学びつつ、ポピュラー音楽用語全般を広くレビューして行く。授業形態は講義中心となるが、課題量が多めなので、講師二人体制でそれらをチェックすることにより、徹底的な理解を目指す。後半アレンジセッションでは、各楽器約1回の講義の後、最低1週はその楽器に関する課題実習の時間を取り、その中で楽器の特性とスコアリングに対する理解を個別に指導して行く。</p>																				
成績評価方法																				
<table border="0"> <tr> <td>試験・課題</td> <td>70%</td> <td>課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価</td> </tr> <tr> <td>成果発表</td> <td>20%</td> <td>授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価</td> </tr> <tr> <td>平常点</td> <td>10%</td> <td>積極的な姿勢</td> </tr> </table>												試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価	成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価	平常点	10%	積極的な姿勢
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価																		
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価																		
平常点	10%	積極的な姿勢																		
履修上の注意																				
<p>前期・後期とも単に「譜面が読める・書ける」ことを目標としているわけではなく、「読み手に余計な推理力を働かせることのない」譜面を作成することを常に念頭に置く。そのためには楽器に関する知識も必要であり、音楽理論も必要になってくる。譜面を書くことで「この先自分は何を学ぶべきか」が、学生一人ひとりに意識付けられるような指導を心がける。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。</p>																				
教科書教材																				
<p>毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする</p>																				
回数	授業計画																			
第1回	LIL について																			
第2回	第16回の続きと、score 作成に伴う注意点を把握する																			
第3回	syncopation をさらに細かく理解し、その際のリズムセクションの扱いを把握する。課題あり																			
第4回	第18回課題のチェックとブラッシュアップ																			
第5回	パーツの把握と記譜法の理解																			
第6回	パターンの実践																			

2021年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科/サウンドクリエイターコース	
ベーシックレッスン2_b	
第7回	楽器の把握と記譜法の理解
第8回	ラインの作り方について
第9回	楽器の把握と記譜法の理解
第10回	打ち込みの実践
第11回	楽器の把握と記譜法の理解
第12回	打ち込みの実践
第13回	個別指導 1
第14回	個別指導 2
第15回	個別指導 3

2021年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科/サウンドクリエイターコース											
ベーシックレッスン2_c											
対象	1年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	甲原 圭			実務 経験	有	職種	アレンジャー				
授業概要											
<p>音楽基礎クラス、音楽周辺クラスでの修得事項を統合し、作・編曲、トラック制作に必要なあらゆる事項を総合的に理解し分析することを目的とする。 1年次は4リズムセクションに関して徹底的に分析することにより修了制作における基礎を築くことになる。</p>											
到達目標											
<p>各セクションの分析をすることによりトータルな（4リズムセクションの）サウンドを構築できるようにすることを目標とする。 あらゆるジャンルにおける分析を行うことにより、独自のトラックを制作できるようになることを目標とする。</p>											
授業方法											
<p>基本情報を基に「それらの情報が音楽を形成する上でどのように機能しているか？」を楽器の実音体験、アンサンブル、他あらゆる観点から体感する。 音楽情報、音楽周辺情報、ノートテイクによる統合と活用。 レポート提出、プレゼンテーションによる具体的な実践も含まれる。</p>											
成績評価方法											
<p>試験・課題 70% 課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価 成果発表 20% 授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価 平常点 10% 積極的な姿勢</p>											
履修上の注意											
<p>ノートの取り方を工夫する。毎回のノート記録を累積して情報の整理を行う。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。</p>											
教科書教材											
<p>毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする</p>											
回数	授業計画										
第1回	4リズムセクションとは何かを理解する										
第2回	楽器の構造、サウンド、機能を理解する										
第3回	パターンを理解する										
第4回	実演を通してドラムの機能・サウンド全体像の把握を目標とする										
第5回	楽器の構造、サウンド、機能を理解する										
第6回	パターンを理解する										

2021年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科/サウンドクリエイターコース	
ベーシックレッスン2_c	
第7回	実演を通してベースの機能・サウンド全体像の把握を目標とする
第8回	楽器の構造、サウンド、機能を理解する
第9回	パターンを理解する
第10回	実演を通してギターの機能・サウンド全体像の把握を目標とする
第11回	楽器の構造、サウンド、機能を理解する
第12回	パターンを理解する
第13回	実演を通してギターの機能・サウンド全体像の把握を目標とする
第14回	アンサンブルの方法論を分析し理解する
第15回	通年での授業内容を振り返り修了制作に反映させる

2021年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科/サウンドクリエイターコース											
ベーシックレッスン2_d											
対象	1年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	谷村 庸平			実務 経験	有	職種	アレンジャー				
授業概要											
<p>現在の音楽制作において、作曲家はメロディの制作だけにとどまらず、DAWソフトを使用した完成品での納品を求められるケースが多く見受けられる。その制作過程において、自身や外部ミュージシャンに依頼をし生楽器の演奏を録音することは必須条件となっている。また録音は外部のスタジオにとどまらず、自宅の制作環境でも多く行われている。そして、そのどちらにおいても同様の高いクオリティの作品を求められるケースは少なくなっている。この授業を通し、楽器の特性や録音方法、また、外部スタジオで最も多く導入されているProToolsへのデータコンバートの方法など極めて実践的なアプローチを習得することを目的とする。</p>											
到達目標											
<p>毎回の講義、録音実習を通して、録音に使用するマイクの種類や特性を学び、録音スタジオでのルーティングを理解をする。また、各自でセッティングをし、DAWソフトウェア（Cubase・ProTools）を使用し、楽器に対して適切な録音を行えるようにする。DAWでの録音作業と並行してオーディオファイルについても理解を深め、最終的には録音したオーディオファイルの編集、それらを用いたラフミックスの作成までを行えるようになることを目指す。</p>											
授業方法											
<p>録音実習では、DAW教室でのナレーション、ボーカル、ギター、ベース等楽器のレコーディングを経験する。DAWを使用した演習では、学生が録音したオーディオファイルを含め、DAW上で行うオーディオ編集、エフェクト処理等、オーディオファイルに関連する様々な事項を取得する。</p>											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
<p>授業の際は筆記用具、ノート（五線紙もあることが望ましい）、データを記録する外付けHDD（SSD）、ヘッドフォン（必要に応じてミニステレオ標準プラグの変換）を毎回用意すること。毎回の授業内容はノートに採り、自身で繰り返し確認できるようにする。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。</p>											
教科書教材											
<p>毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする</p>											
回数	授業計画										
第1回	インピーダンスとは何かを理解する										
第2回	DIを使用して、エレキベースの録音を行う										
第3回	位相についての知識を身につける										
第4回	複数のマイクを使用し、位相に注意しながらセッティングを行う										
第5回	「流し込み」と呼ばれる作業についての理解を深める										
第6回	パラデータをグループでまとめステムデータとして書き出す										

2021年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科/サウンドクリエイターコース	
ベーシックレッスン2_d	
第7回	本番用ミックスの前段階であるラフミックスを理解する
第8回	異なるDAW間でのデータのやり取りを行う知識を身につける
第9回	ProToolsの基本的な動作を身につける。新規セッションファイルの立ち上げ～再生録音まで
第10回	ProToolsの基本的な操作を身につける。ProTools内のルーティング～レコーディング準備
第11回	ProToolsの基本的な操作を身につける。キーボードフォーカス、ショートカットを使った編集作業
第12回	ProToolsを使用し適正なレベルでボーカルの録音を行う。また必要に応じてリバーブをかける
第13回	複数のボーカルトラックを組み合わせてボーカルトラックを完成させる。
第14回	最終的なオーディオの書き出しである「バウンス」について理解する
第15回	各自制作した音源を授業内で発表する